

やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第15号 発行日：平成27年2月1日
 発行元 NPO法人あさお市民活動サポートセンター
 〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
 TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467
 発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

目次：

麻生区初の、 条例指定NPO法人に！	1
A【安全・安心】 AED	2
S【サプライズ】 トンネル壁画	2
A【アミューズメント】 新ゆりグリーンタウン駅伝大会	3
O【お役立ち情報】 シルバー人材センター	3
やまゆりからのお知らせ 第6回 区民講師公開講座	4

麻生区初の、条例指定NPO法人に！



ますます責任の重さを感じて。

平成19年4月に開館した麻生市民交流館やまゆりを管理運営している「NPO法人あさお市民活動サポートセンター」は、昨年12月に川崎市議会の議会承認を受け、市内で6番目、麻生区では初めての「指定NPO法人」として新しいスタートをきることになった。

これも開館以来、やまゆりの運営に汗を流していただいた50名を超えるボランティアの皆さま、167人を超える正会員の方々の活動資金の援助によるところが大きく、感謝もうしあげたい。

指定を得ることは、NPO法人としてのミッション（使命・目的）に対する責任と、市民の皆さんや社会一般に対する責任がますます重くなることになる。

今後、市民の皆様から、更にご支援をいただけるに値する活動を実践し、いただいた会費をさらに次の活動に立派に活かすという、活動サイクルの実践が求められていることも肝に銘じたいと思います。

理事長 植木昌昭



●新春やまゆり寄席



●区民講師公開講座



●ピバ！かがやく子どもたち



●歌声喫茶

●定着した恒例イベント●



●目指せ！アクティブシニア達のセミナー



●ホームページ作成工房



●やまゆり楽芸会



●やまゆりクラフト展



Anshin 安心

「AED」 勇気をだして、その命を救おう！

AEDは、装置が発する音声案内にしたがってボタンを押すなど2-3の操作をするだけで、医学的判断ができない一般の人でも使えるように設計されている。救急車が来るまでのわずかな時間（日本の平均は約8.5分）、あなたがAEDを操作する勇気をだすだけで、命が救われます。

使い方は、まず電源を入れ、音声の指示に従って、機械につなげたパッドを胸に貼り付ける。自動的に心電図の読み取りがはじまり、電気ショックが必要か否かを機械が判断する。



パッド（電極）は心臓を挟む位置に貼る

「ショックが必要です」の音声の流れたら、点滅するボタンを押す。次に「ただちに胸骨圧迫と人工呼吸をはじめてください」の音声の流れたら胸骨圧迫からはじめ、救急車の到着を待つ。胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を続けるが、市民救助者の場合は胸骨圧迫のみでよいとされている。ただし、小児が対象の場合は、人工呼吸を組み合わせることが望ましい。

「麻生区AEDマップ」で検索すると区内のAED設置場所が分る。いざという時に慌てないために身近な設置場所を頭に入れておこう。またAEDを設置している場所では、インジケータの表示内容の確認やパッド、電池の交換など必要な定期整備を忘れずに。

(注) AED：自動体外式除細動器



100回/分で胸が5cm沈む程度に押す。
(小児は胸の厚さの1/3まで押す)



アゴを上げ、鼻をつまみ、約1秒間、息を吹き込む

取材・文 区民記者 中島久幸



Surprise サプライズ

「トンネル壁画」 柿生から 遠くの海に山へ 夢が広がる

平成22年に開通した尻手黒川道路の「柿生大橋」が、片平2丁目交差点につながる架橋下のトンネルに、子どもたちの夢と希望を描いた壮大な壁画がある。描いたのは柿生小学校の全校児童（当時約600名）。

平成20年夏、区役所と片平町内会から「安全で明るいトンネルにしたいから、絵を描いてほしい」と、学区の柿生小学校に依頼があった。

テーマは「～自然にふれあおう～柿生からつながる草原と海」。全校児童が考え、壁画のアイデアも子どもたちから募集した。

近くには柿生の山、遠くには丹沢の山、草原には禅寺丸柿の木があり、動物たちが楽しく集う。麻生川が横浜の大海原に注ぐ。海では魚たちが仲良く泳ぎまわる。「柿生の里から、広い世界へ羽ばたきたい」という、子どもたちの夢いっぱい絵だ。

背景となる、川や山、空や海を描き、全体の監修を引き受けてくれたのは麻生区在住の画家の佐藤英行さん。そこに、子どもたちが画用紙に描いた下絵をもとに、思い思いの生き物を描いた。

ペンキの塗り方、防汚シートや脚立、足場設置は大人たちが手伝った。



壁画は平成21年2月に完成した。右上の写真は、ペンキで生き物を描く児童（平成20年12月頃）

この壮大な壁画制作には1ヶ月、アイデアからは5ヶ月かかったの完成になる。

もうすぐ、麻生川の桜の季節。桜並木からトンネルまでは約50m。足を延ばして子どもたちの絵を楽しんでほしい。

取材・文 区民記者 石崎純也



柿生小学校（校長 伊藤聡志）は平成25年度に創立140周年を迎えた



絵は、長さ約21m、高さ約3mのトンネルの両壁面から天井まで全体に描かれている



Amusement アミューズメント

低学年の部
スタート



師走の風物詩

「新ゆりグリーンタウン駅伝大会」

12月21日(日)、白山の新ゆりグリーンタウンで駅伝大会が開催された。今回で25回目、4半世紀の歴史を持つ年末恒例の伝統行事だ。

前日の雨も上がり、家族や友だちの期待に応えようと練習に励んできた子どもたちに天は味方した。子どもから大人まで、今年は58チーム(5名で編成)が参加した。

日本映画大学グラウンドをスタート、街区内を折り返し、スタート地点に帰って「たすき」を渡す。小学校低学年は1km、高学年から大人は1.3kmの距離を走る。

はしゃいでいた子どもたちも、自分の番が近づくと緊張した顔になる。

スタート。子どもも大人も、家族や友だちの声援に応じて懸命に頑張る。スポーツをやっている小中高校生は一目瞭然だ。みるみる引き離し、前走者に迫る。お母さんがコースに身を乗り出し名前を呼んで激励する。

賞状をもらい喜んでいの子。走り終えて記念写真にポーズをとっているチーム。「走ってよかった、来年も走りたい」「絶対走ろう」と約束しあっている子どもたち。

大会は多くの人の協力で成り立っている。グリーンタウン7街区の自治会・管理組合、各種のスポーツ団体だ。ゼッケン・たすきの準備、参加者の募集・受付・名簿作成などに2か月も前から準備を重ねてきた。

前日の雨でぬかるんだグラウンドへの砂まき、ライン引き、落葉で走者が滑らないようにコースの掃除もした。コース誘導・監視なども大事だ。

300人近くのランナーの着順やタイム集計を、たくさんの記録係とパソコン4台を駆使して行う。

走った者は寒さに負けず駅伝に挑戦したことでそれぞれが何かを得た。応援している人も元気をもらった。裏方として活躍した人も、みんなが喜んでくれてやりがいと満足感を得た。

一千名を超える参加者で盛り上がった駅伝大会は成功裏に終わった。師走の風物詩となった駅伝大会は、こうして伝統を積み重ねていく。

取材・文 区民記者 吉田清次



Oyakudachi お役立ち情報

シルバー人材センター

～困った時のカメ頼み

夏、庭一面の雑草。去年までは自分でできた草取りも、今年は腰痛がひどくて…。天井の蛍光灯が切れた。ひとり住まいの高齢者が踏み台に乗っての交換…危ない！ そんなときはシルバー人材センター(以下、センターと略す)に電話してみても？

センターは国・県・市の指導補助をうけている公益法人。家庭や事業所の軽易な仕事を手ごろな料金で引き受けてくれる。働き手は健康で働く意欲あるシニア。

仕事はさまざま。簡単な**家庭大工、植木剪定、除草、家事援助**(掃除、洗濯、調理、買物など)、**子育て支援**(園児・学童の通園・通学の送迎、放課後の預かりなど)、**地域サポート**(蛍光灯交換、窓ガラス拭

き、室内・浴槽の清掃、家具の移動など)といったところ。利用料は大工、植木など1人1日1万円が上限。他は時給900円～1000円だが、材料費、交通費など実費と事務費が加算される。

センターではいま、このような家庭からの仕事受注に積極的に取り組んでおり、北部事務所での地域サポートサービスの利用者は、ここ3年で約20%の増加。申し込んでもすぐに来てくれるわけではないので、事前に状況を問い合わせた方がよい。特に、植木剪定・除草は人気があり、早めの予約がおすすめだ。

働き手も募集している。健康で60歳以上の川崎市在住者であればだれでも応募できるが、会員制。希望者はセンター



たしかめちゃん
作業は、確かめながら
安全・確実に

北部事務所または麻生区役所地域振興課内シルバー人材・いきいき相談窓口で申し込む。登録手数料1000円が必要だ。就業すると利用料から報酬が支払われる。北部事務所ではここ3年で会員が約30%増えた。これはまさに住民共助システムといっている。

DATA

シルバー人材センター北部事務所
(多摩区・麻生区担当)

所在地:川崎市麻生区上麻生4-56-8

☎044-980-0131

業務時間:8時30分～17時15分

休み:土・日・祝日および12/29～1/3

●麻生区役所3階地域振興課内
シルバー人材・いきいき相談窓口

☎044-965-5119

相談日:水曜・金曜、第1・3・5月曜

業務時間:9～16時(昼休みを除く)

取材・文 区民記者 飯田保幸



植木の剪定作業中



お部屋のお掃除中

第6回 麻生市民交流館やまゆり 区民講師公開講座

◆3月

15(日)	14時~16時	川崎の環境今・昔 歴史に学ぶこれからの道	井上俊明
22(日)	10時~12時	ICPP第5次報告による地球温暖化の今後	竹井 斎
28(土)	14時~16時	快適な在宅介護はどのように	神保 タミ子

◆4月

4(土)	14時~16時	メキシコの街と建築を探訪する 光と色のバイタリティー (ピンク色の世界遺産都市ケレタロを中心に)	黒川直樹
11(土)	14時~16時	昭和アニメ・特撮ヒーロー研究	山浦弘靖
18(土)	14時~16時	すこやか 健康体操 健康寿命を延ばしましょう	山崎由美
19(日)	14時~16時	歩き旅のすすめ	井口征男

◆5月

9(土)	17時~20時	ワイン入門	吉田邦夫
30(土)	14時~16時	布人形づくり	岩田恵美子

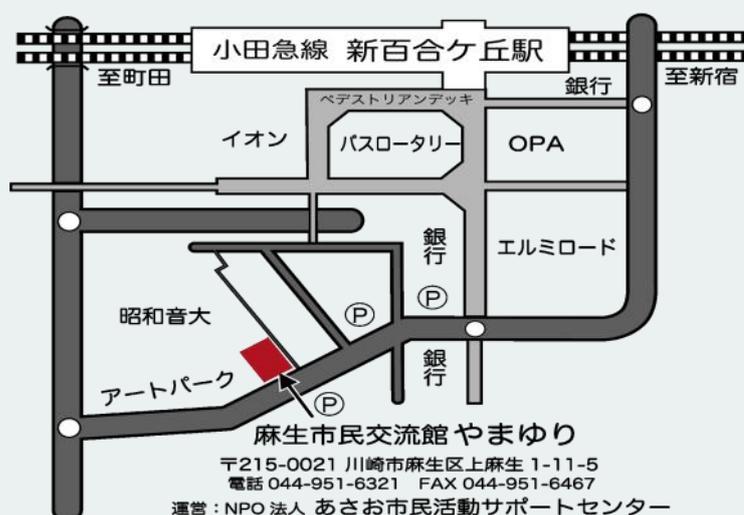
◆会場：麻生市民交流館やまゆり

* 開催月の1ヶ月前の月はじめに、講座のチラシを配布します。詳細はチラシをご覧ください。
お申し込みはチラシ裏面にてお願いいたします。

お申込み受付は、麻生市民交流館やまゆり の窓口へお越しいただくか、Fax. で受付けております。

主催 NPO法人 あさお市民活動サポートセンター

問合せ ☎044-951-6321 Fax. 044-951-6467



麻生市民交流館やまゆり
〒215-0021 川崎市麻生区上麻生 1-11-5
電話 044-951-6321 FAX 044-951-6467
運営：NPO法人 あさお市民活動サポートセンター
【ホームページ】
<http://web-asao.jp/yamayuri/>

【開館日】

月曜~金曜 9時30分~17時

※平日の夜間、土曜・日曜、祝日も予約すれば利用可。
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】

小田急線「新百合ヶ丘駅」南口から徒歩4分

あさお区民記者

区民による、区民のための情報発信
を目的に活動。

区民記者は「やまゆりニュース」掲載記事の
企画構成・取材撮影を担当しています。

過去の取材記事はホームページに掲載しています

<http://www.asao-ku.net/yamayuri-news.html>